

## 1. 研究目的

世界中で昔も今も愛され続けている北欧家具は、現代を生きる若者も注目をしている。

そこで北欧で活躍したデザイナーに着目し、世界中で好まれる理由を探りながら、北欧家具をモチーフとした現代ならではの家具意匠を考案する。

## 2. 調査と分析

### (a) 北欧各国の生活とその特徴

北欧の冬は寒くて長い。よって、人々は家で過ごす時間が長くなる。また、北欧の物価が高いことから、物を大切に扱う習慣がついたようだ。そして、自分やゲストにとっても居心地の良い場所にするために、家具やテキスタイルにとってもこだわりが強い。そんな彼らに応えるべく、デザイナーや職人たちも妥協のない作品を製作し続けている。また、親から子へと何十年も愛されるような、機能的かつ普遍的でいて、リペアのしやすい構造が北欧だけでなく世界で愛される理由である。※(1),(2)

### (b) フィンランドの巨匠 “アルヴァ・アアルト”

北欧では小さい子供も身近な場所で歴代の芸術に触れ合える。そんな環境が多くのデザイナーを生んだ。その中でも、建築家 アルヴァ・アアルトは「スツール60」という世界的に有名な椅子を製作した。素朴で美しい木目と伝統的な製作手法である挽き曲げを利用した「アアルトレッグ」が特徴で、まさに生活に馴染む家具の代表作と言える。フィンランドでは、一般家庭に多く普及しており、幼いころからそれらに触れることが出来る環境にある。

### (c) 「スツール60」とシリーズ化

スツール60は、1933年から愛され、およそ80年が経過した。当時と変わらぬ手法で「L-レッグ」「Y-レッグ」「X-レッグ」やチェアとして作られている。また、一つの製作手法から様々な形に展開しているスツール60から、「シリーズ化」と言うヒントを得た。※(3)

## 3. コンセプトの立案

「伝統的な素材・文様と近代的な素材を融合した現代ならではの家具意匠」

古くから建築、家具、造船などに多く使われてきた木材を使用し、シリーズ化を視野に入れた家具の意匠を提案する。作例として椅子のデザインとその座面のデザインを行う。

## 4. デザイン展開

### (a) 木目が美しく、目を惹く座面のデザイン検討

・北欧では白木を使った木目の綺麗な座面が多く見られる。

・現代において、白木よりも安価で手に入れやすいパイン集成材を使用し、表面に簡単な加工をすることで平らな面の木目よりも、より魅力的な表現方法を考案し、試作を重ねた。

### (b) テキスタイルを取り入れ表現方法の展開

・よく知られた現代的な文様を取り入れる。

・様々な文様を検討・試作した結果、アルヴァ・アアルトが手がけた「SIENA」というテキスタイルを表面にスタンピングする案を採用した。

### (c) 伝統的と現代的の融合

・伝統的な素材を木材、現代的な素材を樹脂として、双方の良さを引き立てる座面を形成した。

・(a) であげた表面加工を埋める様に、透明樹脂を流し込む。そうすることで、視覚的にも物理的にも融合することが出来た。

## 5. 完成図



W380×D380×H430 座面φ280(mm)

## 6. 結論

今回の研究を通して、無垢材とポリエステル樹脂ではサフェーサーを表面に塗布しなければ、両者の接合が悪く剥がれ易いことなど、実際に製作をした事でまだまだ改善すべき点が浮かび上がってきた。

また、実際に北欧家具を取り扱うお店に持ち寄った所、「座面の表現が面白い」「座面下の材の曲線が日本的らしい形状に感じられる」や重さ・値段などの製品として考える必要がある要素のお話も伺えて、今回の提案を実現化するためのヒントも得られた。

## 文献

(1) 萩原健太郎 “写真で旅する北欧の辞典”

p96-97. p120-135 (Nov 2014)

(2) 萩原健太郎 “生活に溶け込む北欧デザイン”

p22-25 (Oct 2008)

(3) 「artec-stool60-」 <http://www.assiston.co.jp/1811>